

第 6 回「第 2 期磯子区地域福祉保健計画」策定委員会議事録	
開催日時	平成 23 年 1 月 25 日（火）16 時から 17 時 10 分まで
開催場所	磯子区役所 7 階 701・702 会議室
出席者	<p>策定委員：別添 1 のとおり（欠席：佐藤委員、瀧本委員）</p> <p>来賓：坂本区長（三浦区社協会長は体調不良で欠席）</p> <p>事務局：別添 2 のとおり</p> <p>傍聴人：なし</p> <p>地域ケアプラザ：根岸 CP 長谷川コーディネーター、滝頭 CP 林コーディネーター、磯子 CP 鈴木コーディネーター、屏風ヶ浦 CP 堀部コーディネーター、新杉田 CP 岸本コーディネーター、洋光台 CP 松田コーディネーター</p> <p>区役所関係職員：岩澤副区長、桑原危機管理担当係長、岡本企画調整係長、山下調整担当係長</p>
概要	<p>I 挨拶 福祉保健課長より</p> <p>II 議題</p> <p>1 第 2 期計画策定の経過と今後のスケジュールについて</p> <p>運営企画係長：(資料 1 に基づいて説明) 策定の経過として、一昨年 10 月以来の取組を記載している。長期間のご協力に感謝しています。</p> <p>裏面には、3 月の計画発表までの進め方について事務局案を記載している。計画発表は 3 月 17 日の区連会で説明した後、翌日の 18 日に行いたい。そのための作業締切として、「2 月 9 日（水）」を原稿提出締切とさせていただく。修正等ある場合はこの日までに事務局へご連絡をお願いしたい。</p> <p>吉田委員長：議題 1 については委員の皆様を確認をしていただいて、先に進みたい。</p> <p>2 第 2 期磯子区地域福祉保健計画の確定について</p> <p>運営企画係長：(資料 2 に基づいて説明) 資料 2 の表面は、発表予定日や計画の周知方法、そして意見募集結果を簡単にまとめたもので、いただいた 19 件の意見は別添の「ご意見の紹介」の束にまとめてある。短い募集期間だったが、他区と比べて多くの意見をいただき、とてもうれしく思っている。意見内容は、今後の進め方の参考になるものもあったし、また我々の説明が不十分のため誤解を招いていると思われるものもあった。</p> <p>資料 2 の裏面は、第 2 期「計画案」から「確定版」にかけての主な変更点を書いている。計画案からそれほど大きな変更はない。</p> <p>主な変更点だが、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表紙の「後期高齢者」という用語は今後使われなくなるかもしれないので、「75 歳以上に」という表現に変え、 ・裏表紙に、区長挨拶と三浦会長挨拶を追加し、 ・各地区の推進組織の名称を具体的に記入し ・各地区のページに写真を追加し、地図に駅名を追加した。 ・あと、裏表紙に広告を掲載する。 <p>事務局としては、このようなかたちで計画冊子を確定させていただきたいと考えている。</p>

吉田委員長:19 件の意見がよせられたが、好意的な意見が多かったようだ。さて、これまでの委員会では地域を代表する委員から多くの発言をいただいた。この計画は地区別計画が中心となるので地域代表からの意見が多くなる傾向にあるが、各種団体を代表する委員の皆さんからの発言もお願いをしたいが如何か。

また、計画案の内容の変更は、事務的なものにだけ限られるのか。

運営企画係長:事務的なものだけでなく内容にかかわる変更も可能だ。

吉田委員長:長い間論議を重ねてきた内容ということもあり、特にご発言は無いようなので、策定委員会として確定し、細部についての調整は事務局に一任したい。

3 第2期計画の推進組織と補助制度について

運営企画係長:(資料3に基づいて説明)これまでも議論してきたが、補助制度の見直しの趣旨・目的を簡単に言うと、「各地区の方々の希望を聞いて補助額を決定したい」ということと、「地区連合単位の活動だけでなく、単位自治会町内会のような範囲での活動も応援していきたい」ということだ。

資料3の1ページ目を読み上げたい。この内容が見直しの精神的な部分だ。資料3の2ページ以降は細かい説明になることと、特に関係の強い各地区の代表の方々には事前に説明をしているので、説明を割愛したい。

(資料3-1を読み上げ)

地区の状況によっては急に舵を切れない場合もあるので、これまでどおりの取組、つまり、地区連合単位を中心とした取組とすることも可能な仕組みになっている。ただ、5年間という期間の中で、より身近な地域での取組にするにはどうしたら良いのかということを検討していただきたい。

お金の話をしてしまうと、どうしても地域福祉保健計画と補助金が強く結び付いてしまうが、共通テーマに掲げた「支えあい」や「要援護者」の取組には、お金をあまり必要としない取組もたくさんある。特に最近の「まめ通信」ではお金をあまり必要としない取組を意識的に掲載している。関係者の方から「補助金など無くてもやることはある」という言葉をいただくこともある。

補助金の説明をしておきながらこのような話をするのもおかしいが、補助金ありきの地域福祉保健計画ではない、ということをご理解いただきたい。

吉田委員長:基本的な考え方を示していただいた。事務局は各地区の策定委員と事前に話し合いを重ねてきているし、引き続き新補助金について説明に入る予定のようだ。今後、各地区の中でどのように補助金を使うのか判断していくことになるが、策定委員の意見はどうか。

吉田委員長:事務局の事前説明の効果もあり、特に意見はないようだ。では、補助金については、この見直し案で進めていただきたい。

4 地域支えあい事業の今後の進め方について

運営企画係長:(資料4に基づいて説明)資料4は第2期計画の共通テーマでもある「地域支えあい事業」の手引きだ。磯子区で地域支えあい事業が始まったのは平成7年に遡るが、その当時に手引きを作成して以降、手引きの更新がされていなかった。

そこで、今回、第2期計画の共通テーマにこの事業を定めたことを機に、現在の状況に合わせて更新させていただいた。

更新にあたっては、昨年度末(22年2月頃)に支えあい事業の関係者を集っていただいたときのご意見や、昨年11月に小宮山会長をはじめとした民児協の新社の方々からいただいたご意見を反映させた。かいつまんで紹介すると、

- ・自治会町内会長の中にも、地域支えあい事業を知らない方が多くいるので、「問1では、地域支えあい事業はどのような事業ですか」として、事業内容を紹介している。
- ・“見守り・訪問”と言っても具体的にイメージを持ってない方も多いため、「問3では、見守り・訪問とは具体的にどのような事業ですか」という設問を準備した。
- ・そして、「問5や問6では、誰がどのように行うものなのか」といったことを説明した。
- ・民生委員に対しては「問10で、民生委員業務と地域支えあい事業の関係」について簡単に整理させていただいた。

手引きを作ったから急に何かを変えなければいけないというものではないが、取組の整理に役立てていただきたい。区役所としても、この手引きを活用して、「地域支えあい事業」がより地域に根付くように努めていきたいと考えている。

吉田委員長：地域支えあいの取組は、全ての区民に関わるこの計画の中心とでもいうものだ。特にご意見はないようなので、手引きについてもこの案で進めていただきたい。では、これが最後の議題なので、全体を通して意見を伺いたい。

櫻井委員：よくまとまった計画ができた。共通テーマで取組が難しいのは二つ目のテーマだ。要援護者の調査から始めなければならないが、個人情報保護を楯に調査に応じない人もいるだろう。まずは応じてくれる人を対象にして始めたいと思う。ところで、補助金を使う事業がたくさん出てきたらどうするのか。

運営企画係長：とても多くの申請が出されたとすれば、それはうれしい悲鳴だ。しかし、その時は予算の範囲内に調整させていただく。ただし、先ほども申し上げたとおり、お金を必要としない取組もたくさんあるし、区役所の補助金の制度を使わないで自治会町内会費を使うという方もいらっしゃるの、無理に補助金事業を増やしてほしいわけではない。

櫻井委員：杉田地区は、これまでの3部会を終了して単位自治会町内会で取組んでいく。自治会町内会は15団体あるが、地区で調整をするつもりだ。

吉田委員長：さて、全ての議題が終了し、ご意見も伺ったので、委員会として確定させた計画を区長と区社協会長にお渡ししたい。

(吉田委員長から坂本区長へ、鈴木副委員長から内藤事務局長へ計画冊子を手渡す)
それでは、区長と事務局長から一言お願いしたい。

坂本区長：長期間にわたる議論に感謝いたします。

まず表紙だが、地域の福祉保健活動は、これまでも地域の皆様に取り組んでいただき、今後も取り組んでいただくことになるが、計画の変わり目で少し立ち止まって、この方向で良いのかどうか、このテーマで良いのかどうかといった議論をしていただいたことを、この表紙の絵が表しているのかと思う。

中身を拝見すると、この計画の中心は10ページ以降の地区計画となっている。

この冊子の地図は小さいために限られた情報しか掲載できないが、地域では様々な活動を行っていただいているので、この地図が大きければもっと多くの情報が掲載できるのだろう。今後もいろいろな情報が増えることを期待している。

そして、地区計画の中の「5年後の私たちの地域」だが、これがとても良いと思った。区長として、各地域が「出しゃばりすぎないおせっかい」、「あいさつ」そして「思いやり」などにあふれるまちにしたいと思う。

一方、各地区の基礎データを見ると、高齢人口の割合が確実に高くなっている。今後3割を超える高齢化率となる社会にどのように対応していくのかということだと思う。

また、計画は作って終わりではないので、地域の皆様も、私たち行政も各地区の計画を気にして考えながら取り組んでいかなければならない。

今日お越しの方々は今までに地域活動を引っ張ってきて、今後も引っ張っていただく方々だ。区役所としては地域の方々と歩んでいきたいと思っている。まずはこの計画に基づいて今後の5年間で、そしてその先も一緒に実施していきたいと考えているので、よろしく願いいたします。

内藤事務局長：この計画は社協の活動計画でもあるので、一緒に策定に取り組んできた。地区別計画の推進について地区社協が推進組織を担っていただける地域があるとのことでありがたく思っている。区社協も推進に取り組んでいくのでよろしく願いいたします。

吉田委員長：区役所と区社協から力強い言葉をいただいた。私たちも行政も共に取り組んでいきたい。さて、この策定委員会の役割もそろそろ終了かと思うが、これまで策定委員会を支えてくれた鈴木副委員長からお言葉をいただきたい。

Ⅲ 閉会

鈴木副委員長：一昨年の10月から始まった第2期計画の策定委員会も、本日を持って終了となる。1年3か月もの間、委員の皆さんには大変に熱心な討議をしていただいた。議論の中では、事務局から第2期計画を推進する事業には補助金を使う事業もあるだろうし、補助金を使わない事業もあり得ることが示された。

また、事業の対象範囲についても、地区の範囲を対象にする事業もあれば、単位自治会町内会を対象とする事業もあり得ることが示された。各地区、地域の実情に合わせた事業の展開を期待したい。

本日、「計画書」が完成したが、たくさんの区民の人たちに目を通していただき、第2期計画の内容が磯子区内に広がることを期待している。

私は、計画書の2ページや4ページの部分を活用して、第2期計画の真髄とも言える身近な地域で支えあうことの大切さを、多くの地域の方々に語りかけて行きたいと思う。

地域福祉保健計画は5年間の計画なので、じっくり腰をすえて計画の推進に取り組んでいきましょう。

吉田委員長：事務局から連絡事項はあるか。

福祉保健課長：策定委員の皆様ありがとうございました。計画が確定してほっとされているかと思う。策定委員会はここで一度解散となるが、次は推進委員会を設置する必要がある。事務局としては、策定委員の皆様引き続きお願いしたいと考えている。

	<p>来年度に改めてお願いさせていただくのでご協力をお願いしたい。</p> <p>吉田委員長：委員長として皆さんの意見をうまく引き出して、受け止めることができたのかと反省もあるが長期間のご支援に感謝します。</p> <p>さて、共通テーマはどの地区でも対応をお願いする取組だが、すぐに思い浮かぶのは高齢者や障害のある方々だと思う。しかし、少し広く考えれば、区民ひとり一人が見守りの対象者であることに気づく。特に私は保育園を運営しているので、災害時にどうやって幼児を避難させるかといったことが気にかかるし、子育てに悩みのあるお母さん等が虐待に走りやすい社会になりつつあることを心配している。</p> <p>まずは高齢者や障害のある方々に対して手を打つことの必要性に迫られているが、事業が少し進んだあかつきには、範囲を広げて、全ての区民が見守りの対象者であり、支援者であるということまで認識を高められればありがたい。</p> <p>4月から計画が開始されるが、ひとりでも多くの方々に計画の中身をご理解いただきたい。地域の皆様にはこれまでも取りまとめにご苦労いただいたと思うが、ぜひもう一肌脱いで住みやすいまちづくりにご協力いただきたい。</p> <p>長い間のご協力に感謝します。最後に斉藤部長から閉会挨拶をいただきたい。</p> <p>斉藤担当部長：委員の皆様には、1年半弱の間、ご支援・ご協力いただきありがとうございました。この計画が区民ひとり一人に浸透していくよう、周知に努めていきたい。各地区の計画についても、区役所や区社協は、本日お越しの地域ケアプラザの皆さんと一緒に推進していく。磯子に暮らして良かったと区民みんなが思えるようにこの計画を推進していきたい。</p>
その他	障害者自主製品販売のカフェ ル・シエールの紹介チラシを席上配付

『第2期磯子区地域福祉保健計画』策定委員会名簿

平成23年1月25日現在

		所 属	氏名(敬称略)
各種団体代表 (氏名五十音順)	1	磯子区社会福祉協議会当事者団体部会 部会長	上杉 惇
	2	磯子区内障害者施設 代表(1)	小田嶋 悟
	3	磯子区民生委員児童委員協議会 会長	小宮山 滋(兼)
	欠席	磯子区体育指導委員連絡協議会 副会長	佐藤 孝明
	5	磯子区連合町内会長会 会長	鈴木 伊三雄
	欠席	磯子区医師会 福祉医療事業部会長	瀧本 篤
	7	磯子区保健活動推進員会 副会長	田辺 実
	8	磯子区内ボランティア・市民活動関係団体 代表(2)	時任 和子
	9	磯子区青少年指導員協議会 副会長	福士 市子
	10	磯子区社会福祉協議会 副会長	吉田 修
地区代表	11	根岸地区 代表	須川 さよ子
	12	滝頭地区 代表	古知屋 多恵子
	13	岡村地区 代表	早乙女 幸男
	14	磯子地区 代表	平戸 栄次
	15	汐見台地区 代表	岡 道子
	16	屏風ヶ浦地区 代表	小宮山 滋(兼)
	17	杉田地区 代表	櫻井 重人
	18	上笹下連合地区 代表	村岡 宗夫
	19	洋光台地区 代表	大平 清子
行政等	20	磯子区内地域ケアプラザ 代表(3)	水越 尚登
	21	磯子区地域振興課長	名木 斉(4)
	22	磯子福祉保健センター長	臼井 進(4)

(: 委員長、 副委員長)

1 いそご地域活動ホームいぶき施設長

2 磯子区 NPO 連絡会事務局長、NPO 法人夢・コミュニティネットワーク代表

3 滝頭地域ケアプラザ所長

4 平成22年4月1日～

『第2期磯子区地域福祉保健計画』策定委員会 事務局名簿

平成23年1月25日現在

所 属		氏 名
1	磯子福祉保健センター 担当部長	斉藤 林福
2	福祉保健課長	戸塚 徳雄
3	運営企画係長	中村 仁
4	運営企画係職員	伊東 秀明
5	同上	近藤 玄樹
6	同上	後藤 與四也
7	同上	伊東 ゆかり
8	健康づくり係長	菅野 美穂
9	高齢・障害支援課長	嘉代 哲也
10	こども家庭支援課長	岡ノ谷 雅之
11	磯子区総務部地域振興課 地域力推進担当課長	平石 浩二
12	地域力推進担当係長	森田 純
13	地域力推進担当職員	田中 さゆり
14	磯子区総務部総務課 総務課長	金子 裕
15	磯子区社会福祉協議会 事務局長	内藤 博昭
16	事務局次長	西谷 大介
17	職員	並木 史江
18	職員	大久保 敦子